オーディオ実験室収載

USB-101 その後（2）
―USB-101 と CD 再生の比較（そのⅡ）―

USB-101 その後（１）では、CD プレイヤーの見直しをしたわけですが、今回は USB-101 の DD コンバーターとしてのパーフォーマンスからの「グレードダウン」を試みてみました。

１．USB-101（ABS-7777 クロック制御あり）→DAC-1
２．USB-101（ABS-7777 クロック制御なし）→DAC-1
３．USB-101（ABS-7777 クロック制御あり）→USB-101 内蔵 DAC 使用
４．USB-101（ABS-7777 クロック制御なし）→USB-101 内蔵 DAC 使用
５．47 研究所信楽トランスポート同軸ディジタル出力→CRV-555（ABS-7777 クロック制御）→DAC-1
６．マランツ SA11-S1 アナログ出力

即ち、これまで試聴の基準としてきた１の状態から、外部クロック制御を外したり、DAC を DAC-1 から USB-101 内臓 DAC に替えたりして、云わば、グレードダウンを行い、１の標準状態からどのように変わるか、またそれでも CD プレイヤーに比べて音質面での優位性が保たれているかどうかを見ようとしたわけです。

まず、１の状態から外部クロック制御を外した内部クロックでの状態ですが、USB-101 の基本的な音質は保たれ、この状態では５や６の CD プレイヤーに比べても、USB-101 を使用するメリットありと判断されます。しかし、ABS-7777 の方が内臓クロックより高精度なためか、外部クロック制御を外すと弦の艶が後退し、音像の低位と楽器の分離が外部クロック制御ありに比べて甘くなります。

次に USB-101 内臓 DAC につなぎかえ、ABS-7777 クロック制御を効かせたり、外したりして聴いてみました。USB-101 の取扱説明書によると、「DAC-1 には及ばないが、簡易型の付属的なものでもなく、オーディオ市場にある中高級クラスの音質と十分比較できるもの」と記載されています。この記載のとおり、５や６の CD プレイヤーに比べて遜色のないもので、PC にぽんと繋いだだけで、これだけのクオリティで楽しめることは驚異です。DAC-1 を使用し、ABS-7777 で外部クロック制御したときのような、ある種の凄味はありませんが、音楽の基本線はきちんと再現し、CD の騒がしさがありません。しばらく、この状態で聴いていましたが、慾を出さなければ十分というレベルで、数年前に入手できていれば感激したでしょう。

以上、USB-101 はこれだけを PC につないで USB-101 内臓 DAC を使うだけで、かなりのクオリティで音楽を楽しむことが可能です。しかしながら、オーディオシステムに取り込んで、従来にないクオリティを発揮させようとすると、より良い DAC の選択や

高精度のクロック入力御を付与するなどの条件が必要となります。そういった条件を与えてやれば、ハイエンドシステムに交じっても、さらに、それらのクオリティをあげてくれるという期待に応えてくれるということでしょう。つまり PC オーディオの入門用から、ハイエンドの一角まで幅広く使えるものと思います。

以上